

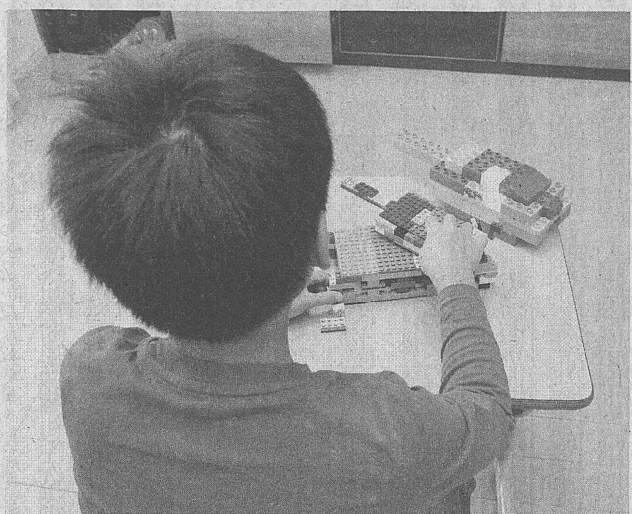
学び見守り 生きる力に

十人十色

12

子どもたちの今

今回は、40歳代の男性Aさんのお話をさせていただきます。初めて出会ったのは、Aさんが小学5年生の時でした。自転車を乗り回し、友だちと野球をすることが大好きな活発な子ども



ブロック遊びに熱中する子ども

夢中になれるものとの出会い

もでした。自転車に乗っていてバスと衝突したり、駅のホームで頭にカバンをかぶって歩き線路に落ちたりと、一つ間違えば命にかかわる出来事もありました。

学校生活では忘れ物が多く、友だちにすぐ手が出てしまい、先生に叱られることが多くありました。授業中もじっとしてられず、貧乏ゆすりをしたり目をパチパチしたり、チック症状が出ていました。

そんなAさんは、カブトムシを幼虫から育てるなど小さい頃から生き物が大好きで、捨て犬や捨て猫を見つけると自宅に連れ帰っていました。高校生の時、Aさんが魅せられたのが馬、それも競走馬でした。興味は「馬の血統を調べる」ことへと深まっていきます。

分析と研究をします。自室の床は、その証しともいえる馬の家系図「血統表」で見えないぐらいいました。その後、Aさんは大いに進んで牧場に勤め、今は血統の専門家として充実した日々を送っています。

Aさんの幼少期の振る舞いは「注意欠陥・多動性障害（ADHD）」と思われる。現代であれば、その特性に対し、先生をはじめ周囲の理解も得られやすいでしょう。しかし、当時は発達障害という言葉さえない時代でした。

Aさんが幸せだったのは、自身が夢中になれるものとの出会い、その学びを見守ってもらえたことです。

子どもは興味や関心のあることには、驚くほどの集中力を発揮します。そうした学びが自信につながり、生きていくエネルギーとして蓄積されていくのです。

（発達支援塾アットスクール代

「血統辞典」を購入し、日々

表 鈴木正樹）